

仏心と葬弁儀 | その23 |

釧路納棺協会設立の思い

今年3月、丸和堂はあらたに「釧路納棺協会」という株式会社を設立させていただきました。ここでは釧路市内をはじめ札幌や旭川で最新の技術を磨いた優れた納棺師を数多く在籍させることにより、依頼を受けて釧路管内のどこへでも派遣するとともに、業界全体の技術の向上を目指し、プロとしての真心と技術を備え持った新しい納棺師の育成を行います。

大ヒット映画「おくりびと」の影響から、広くその業務の実態が世間に知られるようになった納棺師という仕事ですが、故人の旅立ちをお手伝いするという極めて尊い仕事でありながら、国家資格などの認定制度がなく、技術者を育てる育成機関も地元にはないというのが実態でした。

「亡くなられた方の末期の水をとり、湯灌をおこなったり旅支度を整えて差し上げる」という納棺師の仕事は、一朝一夕に身に付くものではない」と常々考えていた飛田は、自らの40年以上にわたる葬儀業者としての経験と誇りから、「単に技術だけでなく、葬儀という神聖な現場に立ち会うプロの技術者として、その心構えから想いまでも受け継いでくれる若い技術者を育てたい」という、長年の思いを実現させたものでした。

真心のこもった納棺のために

亡くなられた故人をできるだけ生前の姿のように、むしろ病氣や事故で痛ましい姿になってしまった場合は、元気であった頃の姿に近付けるようにお顔の様子を整えることを遺体メイクといい、土葬が一般的な欧米では、古くから非常にポピュラーな仕事となっているようです。特に亡くなられた方が女性の場合、家族や友人に見守られてお別れをする告別式が終わる瞬間まで、できるだけきれいな姿のままでありたいはずと考える丸和堂では、力仕事に秀でた男性納棺師に加えて、これらご遺体へのメイクアップ技術に優れた2名の女性納棺師が、最期の旅立ちのお手伝いをさせていただきます。女性ならではの細やかな技術と心配りで、ご遺族の深い悲しみをいくらかでも和らげることができれば、そんな真心のこもった納棺をお手伝いする、それが彼女たちの喜びであり、使命となっているのです。

これまで約2年間の永きにわたって読者の皆様にお届けして参りました「仏心と葬儀」も、いよいよ次回で最終回を迎えます。これまで私ども丸和堂の創業の理念や姿勢を一方的にお伝えして参りましたが、そんな思いが少しでも読者の皆様に伝わればと願う次第です。 | つづく |

■次回の掲載は七月十七日(土)を予定しております。